



青い空、青い海
光輝く御前崎

SHIZUOKA
OMAEZAKI

御前崎の暮らしを満喫する 3家族の物語



早晨、海岸を散歩しながら昇る朝日を眺め、仕事が終わる頃、水平線に沈む夕日を見送る。たいよう（太陽＆大洋）がひときわ輝く御前崎だからこそかなう、そんな日常。

温暖な気候、四季折々の美しい自然、そこに住む人たちの大らかで温かい人柄……。たいようがもたらす恵みは果てしなく豊かです。

さあ、海辺のまち御前崎で始めませんか。自分らしく心豊かな暮らしを。

御前崎ファンをもてなす喜び



たなか よしみち まゆみ
田中 善通さん・麻友美さん一家

夫の善通さんは千葉県出身。東京、福井市、静岡市の勤務を経験。公私で国内外様々な海へ行ったことがあるご主人。「家族で海辺に定住するなら絶対、御前崎」というご主人たつの希望で移住。現在はイチゴ農家で修行中。妻の麻友美さんは神奈川県生まれ、千葉育ち。善通さんと結婚し、御前崎市に移住後、2019年から「The Green Room INN」というペンション経営を本格始動。夫婦と子ども2人の4人家族。

自宅&ペンションからたった徒歩1分で、こんな素敵な夕景が楽しめる日々…。



僕が御前崎に移住を決めたのは、どこの海よりも御前崎の海に魅せられたのが一番です。週末ごとにひとりで御前崎に通っていたから、思いきって住んでしまつたほうが家族と一緒に毎日居られるのではないかと考え、2017年に2人で移住を決めました。(善通さん)

現在、私たちは自宅を兼ね購入した建物を改装し、ペンション経営をしています。海沿いの立地を生かして、マリンスポーツや釣りを楽しむ人はもちろん、ご家族でのんびり過ごしてもらえる場所を提供できればと考えています。

私は正直、最初、慣れない御前崎でどう過ごしたらいいのか、少し不安に感じていました。ところが、出産や子育て、お祭りを通じて地元の人とつながったり、ペンションを通じて全国の人とのつながりができることで、日々出会う人の温かさを感じながら楽しく暮らしています。(麻友美さん)

夢は、海がきれいで、食べ物がおいしいくて、人も気候もあたたかい、そんな御前崎をもっと多くの人に知つてもらいたい。ペンションに来て体感することで、「ここに住みたい!」と思う御前崎ファンが増えたら、僕たちもうれしいですね。(善通さん)



ウッドデッキで一家揃ってバーベキューの準備。子どもたちも進んでお手伝いを。



最近は釣りやギターにも夢中という善通さん。自分でルアーを作りすることも。



善通さんはサーフィン、子どもはスケートボードを満喫。

子育てつて ホント楽し い



御前崎で生まれ育った妻と結婚したことが、移住の理由です。それまでは国内外のリゾート地でツアーガイドなどの仕事をしながら暮らしていました。結婚して子どもを持つならとにかく環境のいい場所で、と思ったことが大きいですね。

現在は会社員をしながら、絵を描くというアート活動に励んでいます。実は結婚した2015年頃から自分がこれまでの人生で感じたこと、経験してきたことを絵画という形で表現することを始めたんです。そうしたら楽しくて楽しくて「自分が生涯続けたい」という感じでとても充実しています。

御前崎は子どもをのびのびと育てられる場所だし、移住した先輩たちも多く、とても親切してくれます。地域の活動・イベントなどにも積極的に参加することで、知り合いがどんどん増えて、何かあればみんなが力を貸してくれるようになります。この先長く暮らしていくわけだから、地域の方とコミュニケーションをとって、暮らしを楽しむのが一番じゃないかなと思いますね。



「家族と一緒にいる時間は何よりの喜びと幸せを感じる時間」と次朗さん。



題名／Come out



題名／home

2階ホールの一角にあるアート空間。絵は独学である日ふと描き始めた。2020年から展示会を開いたり、アート展に出展したりするよう。2021年の秋にはパリの「ルーブル美術館」地下会場で作品を披露する。

PROFILE
2016年
御前崎移住

すずきじろう

鈴木 次郎さん

2016年
御前崎移住

すずきじろう

鈴木 次郎さん

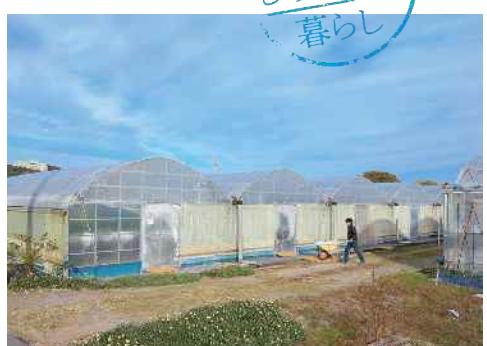
長野県出身。大学卒業後、企業に就職するが、「本当に夢中になれるもの」を見つけるために退職し、ワーキングホリデイで海外を転々。カナダでワーキングホリデイをしていた御前崎出身の奥様と出会い結婚。長女、長男の4人暮らし。同じ敷地内には奥様の両親、祖母も一緒に暮らしている。

農業経営の夢



農園名は「KURI BERRY FARM」。
「幸せのリング、光るいちご。」の名で
ブランド化も。

叶いました



全長約30mのハウスが連なり、ハウスの総面積は2,100m²。



ハウス全体で約13,500本の苗が植わり、毎年1シーズンで約13トンのイチゴを出荷。

イチゴは甘みだけでなく、コク、酸味、香りがあって、見た目の輝きがいいと評判。さっちり基本に忠実に!が栽培のコツ。イチゴの葉も生き生きとしている。

PROFILE



くり もと

栗本めぐみさん

静岡市出身。高校時代から農家になることを目指し、東京農大に進学。卒業後、農家としてのマネジメント力、営業力等をつけるため、青果卸、商社勤務を経て、御前崎で就農し移住。研修仲間だったご主人と結婚。夫婦別経営でイチゴ栽培に従事。

日本有数の日照時間を誇る御前崎はイチゴやトマトなどの施設園芸に最適な場所。恵まれた環境のもと、1年目から順調に出荷できいて、想像以上の成果を上げています。

農家は休みがないと思われがちですが、別経営でイチゴ農園を

静岡県の新規就農支援制度を利用して、御前崎での研修・就農を希望したことから、この地に移住することになりました。受入農家さんのもとで1年間研修を受けて、2009年にイチゴ農家としてスタート。県の制度はもとより、受入農家さんや地域の方々の支えがあつてこそ独立就農できたのだと、とても感謝しています。

當む主人との約束で、お互いに繁忙期でも夕方6時まで、日曜日は必ず休むと決めています。夫婦で旅行に行くのが楽しみ。プライベートも充実しないと、いい仕事はできないですからね。農家も

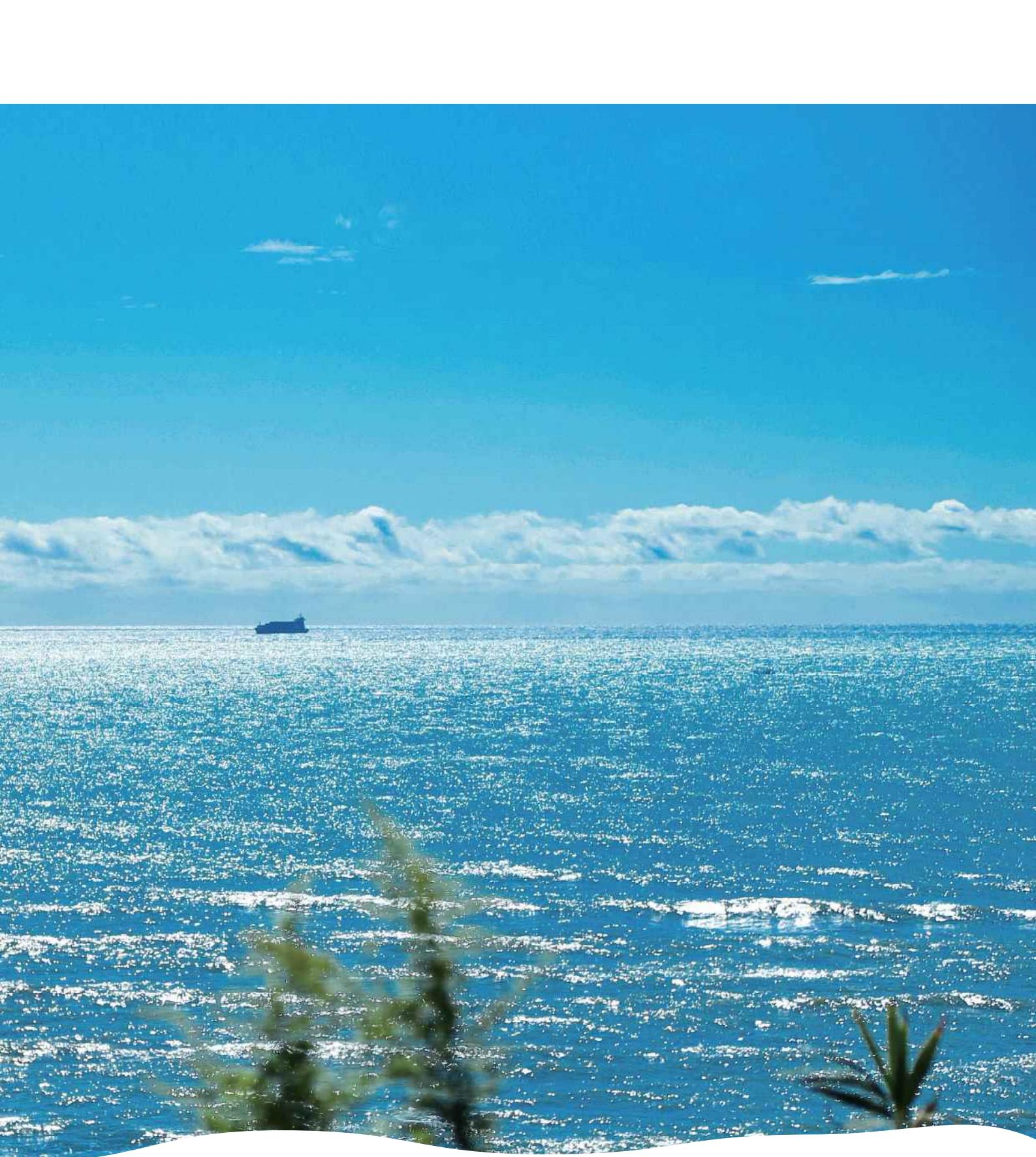
普通の会社を起業するのと同様、経営者という視点が大切だ

今後は、新卒でもすぐに就農・起業できるような「仕組み」を後輩たちのために作ることが私の大きな夢です。

と思いますね。

農家は休みがないと思われがちですが、別経営でイチゴ農園を





問合せ先

静岡県御前崎市
総務部企画政策課

TEL:0537-85-1161
FAX:0537-85-1137